2025年6月20日開示しました開示内容の6頁の市場環境グラフを更新致しました。

事業計画及び成長可能性に関する事項
Ver2.0

株式会社セキュアヴェイル（3042）

2025年8月18日

目次

Ⅰ.会社概要

事業目的と概要

当社グループは、インターネット黎明期である2001年の創業以来、情報セキュリティ対策に特化した専業事業者として、お客様にシステム環境を「安全に健やかに使い続けていただくこと」を追求してきました。

社会経済活動を支える必要不可欠なインフラとして、お客様のネットワーク・セキュリティ運用を、24時間365日体制で、責任を持って、お手伝いさせていただくことが、創業時からのサービスポリシーです。

当社グループは、当社、連結子会社２社（株式会社キャリアヴェイル、株式会社LogStare）の計３社で構成されております。

会社名	株式会社セキュアヴェイル （英文表記：SecuAvail Inc.）
創業年月日	2001（平成13）年 8月 20日
代表者	代表取締役社長　米今 政臣
証券コード	3042
従業員数（連結）	106名（2025年3月31日現在）
事業内容	コンピュータセキュリティの運用・監視・ログ分析サービス
本店所在地	〒530-0044 大阪府大阪市北区東天満1-1-19 アーバンエース東天満ビル
子会社	株式会社キャリアヴェイル 株式会社LogStare

企業理念と使命（ミッション）

企業理念

「貢献」

最高の品質のサービスを提供させていただくことにより
お客様の業務発展に貢献し、従業員とその家族を幸せにし
会社の発展と社会・地域社会に貢献することを目的とする

当社の使命（ミッション）

お客様のシステムセキュリティを確保し、
事業運営を安心して継続されるためのシステム運用支援者として、
安全で役立つサービスを提供する会社として、
末永くお付き合いいただける企業を目指してまいります。

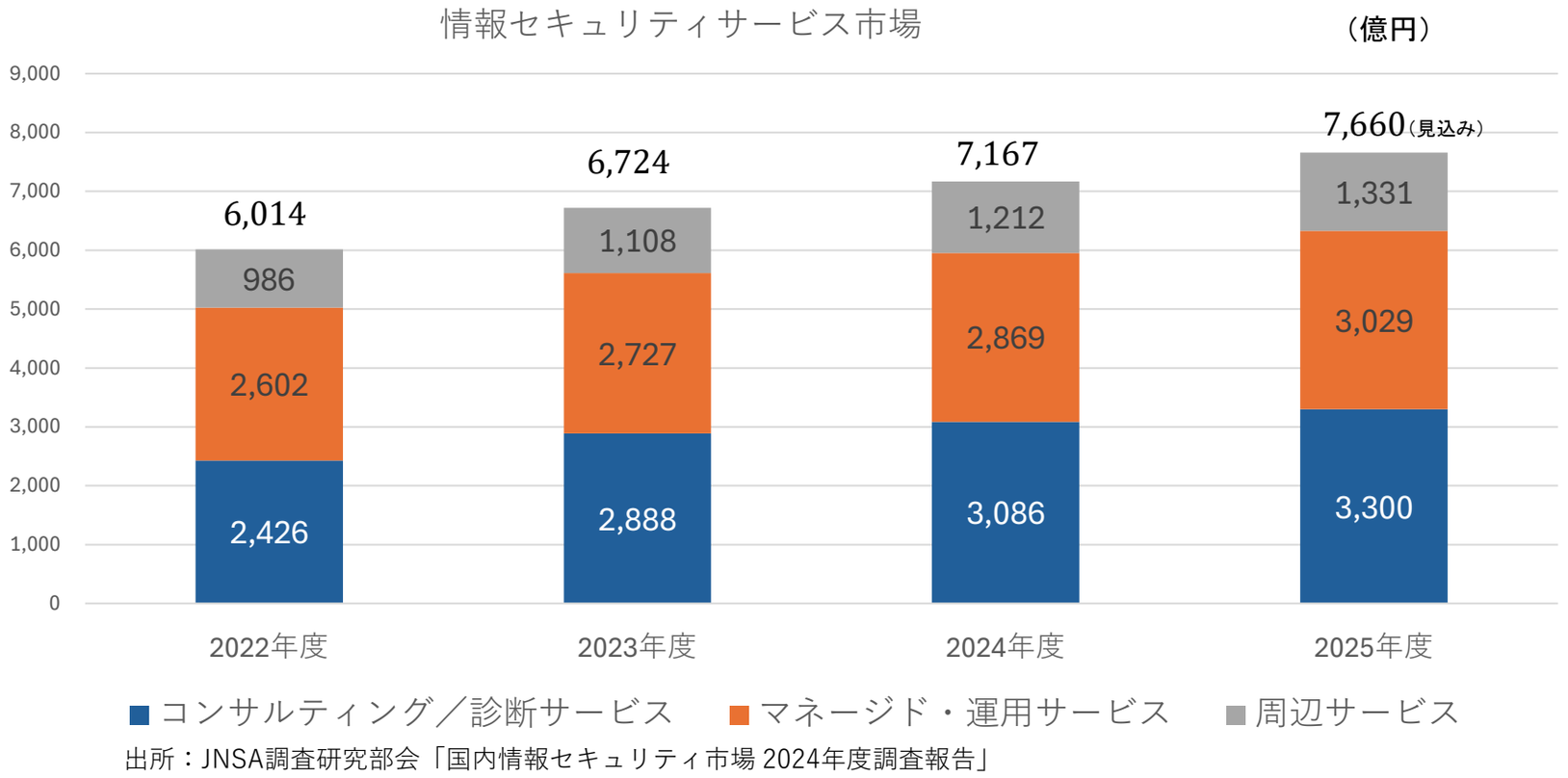
Secure（安全） × Avail（役立つ）

Ⅱ.市場環境

主たる事業の市場環境

情報セキュリティ市場の環境では、システムの脆弱性を突いたサイバー攻撃が後を絶たず、国内外の様々な企業で被害が発生しており、社会経済に与える影響は深刻化しています。

セキュリティインシデントや情報漏洩は年々増加傾向にあり、情報セキュリティ対策やログ管理の重要性が益々高まっております。



出所：JNSA調査研究部会「国内情報セキュリティ市場 2024年度調査報告」

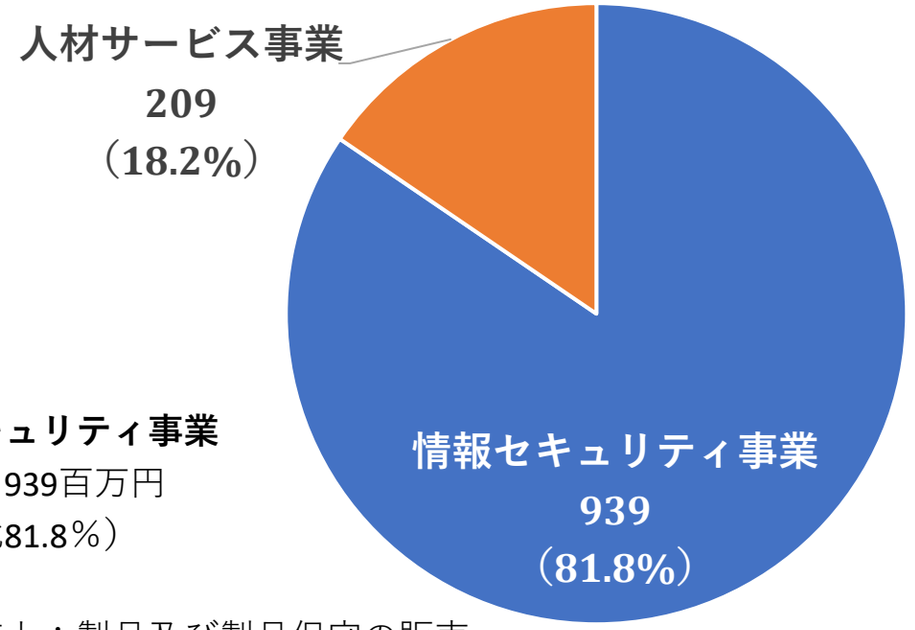
Ⅲ.事業内容

2025年3月期　連結売上高構成及び連結コスト構成

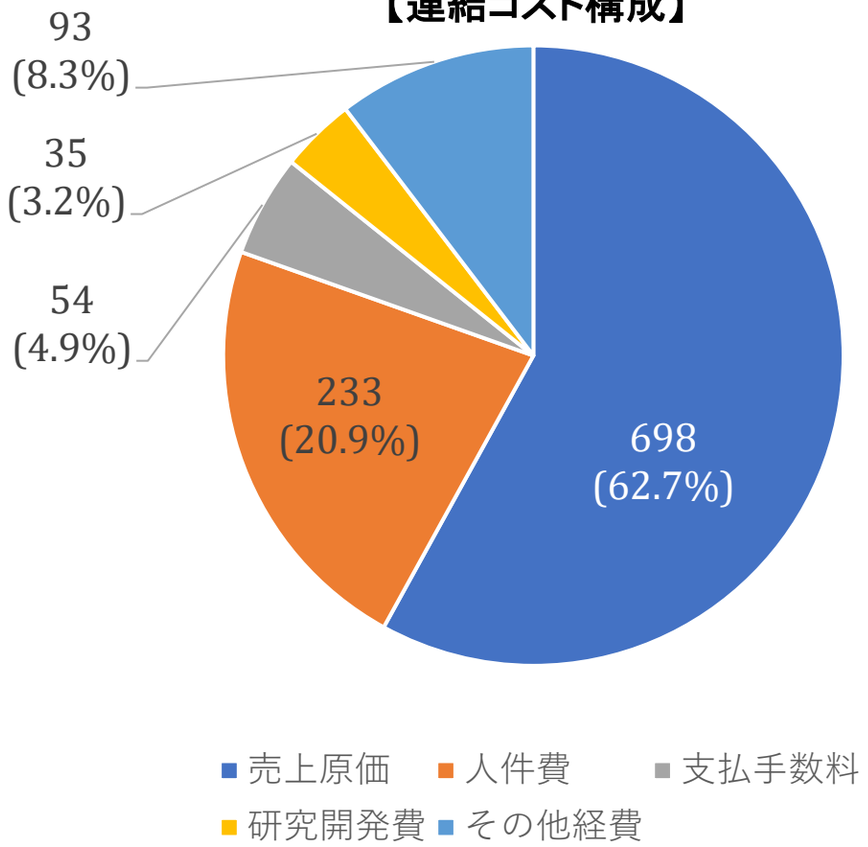
当社グループは、ネットワーク・セキュリティ運用・監視サービス及び各種セキュリティ運用基盤の開発・販売を主とする「**情報セキュリティ事業**」、情報セキュリティエンジニアを育成し派遣する「**人材サービス事業**」を展開しております。

単位：百万円

【連結売上高構成】



【連結コスト構成】



情報セキュリティ事業
売上高　939百万円
（構成比81.8%）
＜内訳＞
①商品売上：製品及び製品保守の販売
売上高　215百万円（構成比22.9%）
②サービス売上
売上高　724百万円（構成比77.1%）
SOCサービス及び各種セキュリティ運用基盤の開発・販売

情報セキュリティ事業

当社グループの主たるビジネスである情報セキュリティ事業は、セキュリティ運用監視サービス「NetStare（ネットステア）」を主に展開する「株式会社セキュアヴェイル」、より付加価値の高いサービスを提供するため、「ユーザーの運用に役立つ」というサービスコンセプトの下に各種セキュリティ運用基盤の開発・販売を主たる事業とする「株式会社LogStare（ログステア）」の２社の事業部門から構成されております。

自社開発した各社のサービスの特徴が、グループとしての競争優位性を実現しています。

株式会社セキュアヴェイルの提供する

NetStare® ネットステア

「NetStare®」とは、24時間365日体制でお客様のネットワークインフラを監視し、機器故障、通信障害、サイバー攻撃などをいち早く発見する、統合セキュリティ運用サービスです。SOC (Security Operation Center)とNOC (Network Operation Center)を融合させたプロフェッショナルサービスであり、日々のシステム監視やセキュリティ運用はもちろん、機器の設定代行、ログ分析・リスク分析、セキュリティポリシーの改善提案、ネットワークの脆弱性診断など、お客様のITセキュリティを総合的に支援する、業界でも数少ない自社開発による純国産のSOCサービスです。

株式会社LogStareの提供する

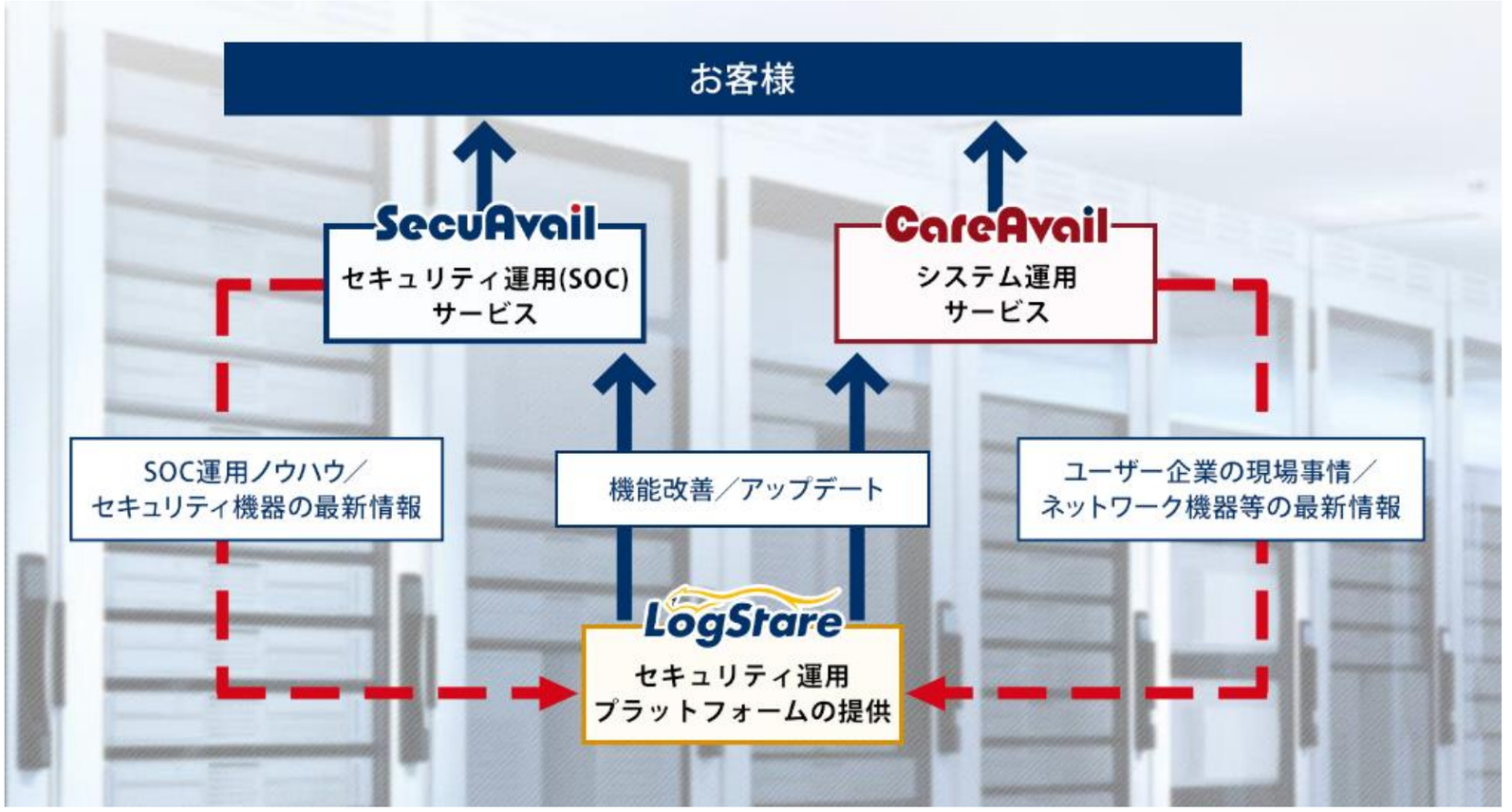
LogStare ログステア

「LogStare」とは、システム監視、ログ管理、AI予測、すべての機能を1つのソフトウェアで実現する、次世代のマネージド・セキュリティ・プラットフォームです。
従来のセキュリティ運用ソフトは、システム監視とログ管理に分かれ、さらにレポート作成や将来予測のための分析ツールも別途必要となり、すべてを導入し適切に運用することは、お客様の大きな負担となっていました。「LogStare」は、セキュアヴェイルのSOCが実際に実務で使うレポートテンプレートが標準搭載されており、導入直後からすぐに使用できます。導入障壁・導入コストを最低限に抑え、多機能を1つのソフトウェアで実現し、かつクラウドで提供できることが、他社にはない強みです。

情報セキュリティ事業における垂直統合型ビジネスの確立

SecuAvail

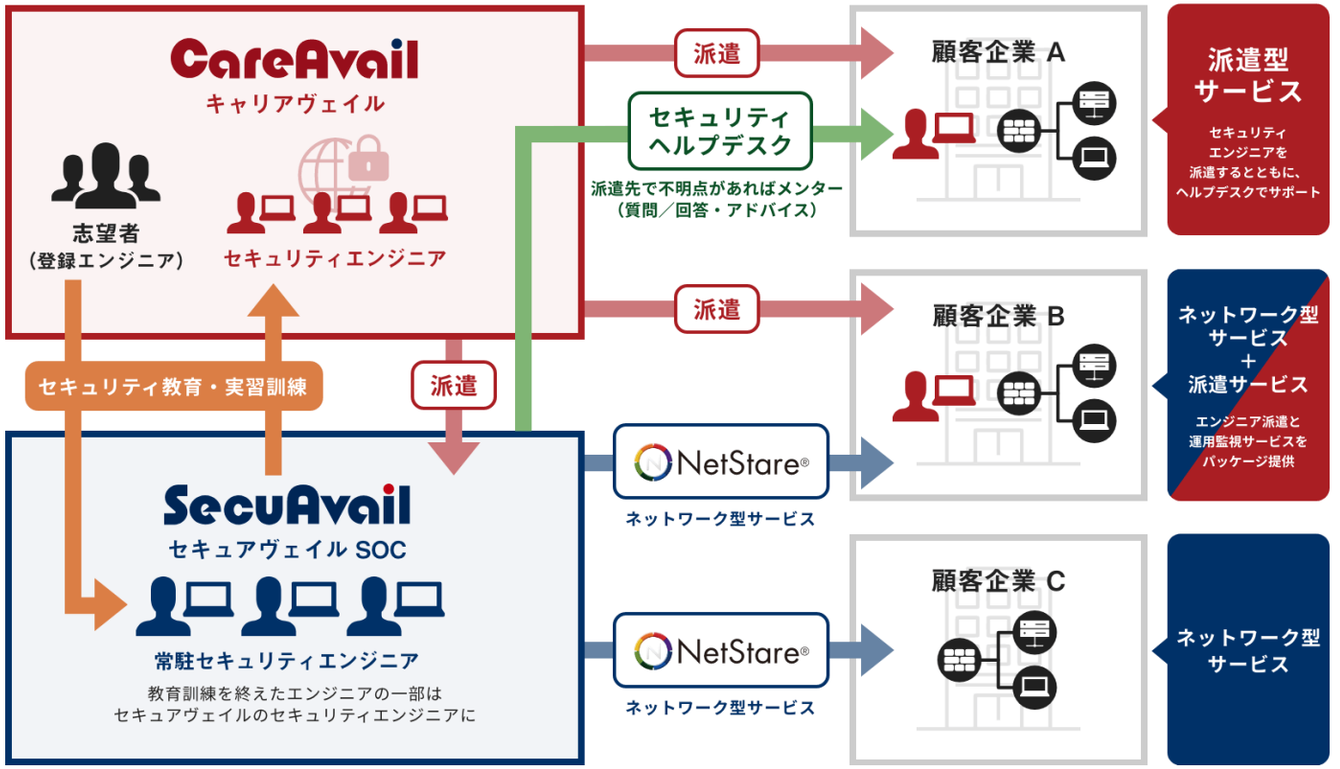
当社グループの主力サービスである統合セキュリティ運用サービスにおいて、セキュリティ監視・運用に欠かせない現場の最新の動向・情報が常に最新に保たれる「垂直統合型ビジネス」を確立しています。



人材サービス事業

人材サービス事業は、連結子会社「株式会社キャリアヴェイル」を通じて、お客様への情報セキュリティエンジニア派遣を主としております。

効果的な情報セキュリティ対策を行うには、専門知識を有するプロフェッショナルの助力が必要であることから、情報セキュリティエンジニアを育成し、派遣することで、ネットワーク化の進行する社会の要請に応えるべく、情報セキュリティエンジニア不足に悩むお客様のニーズの獲得に取組んでおります。

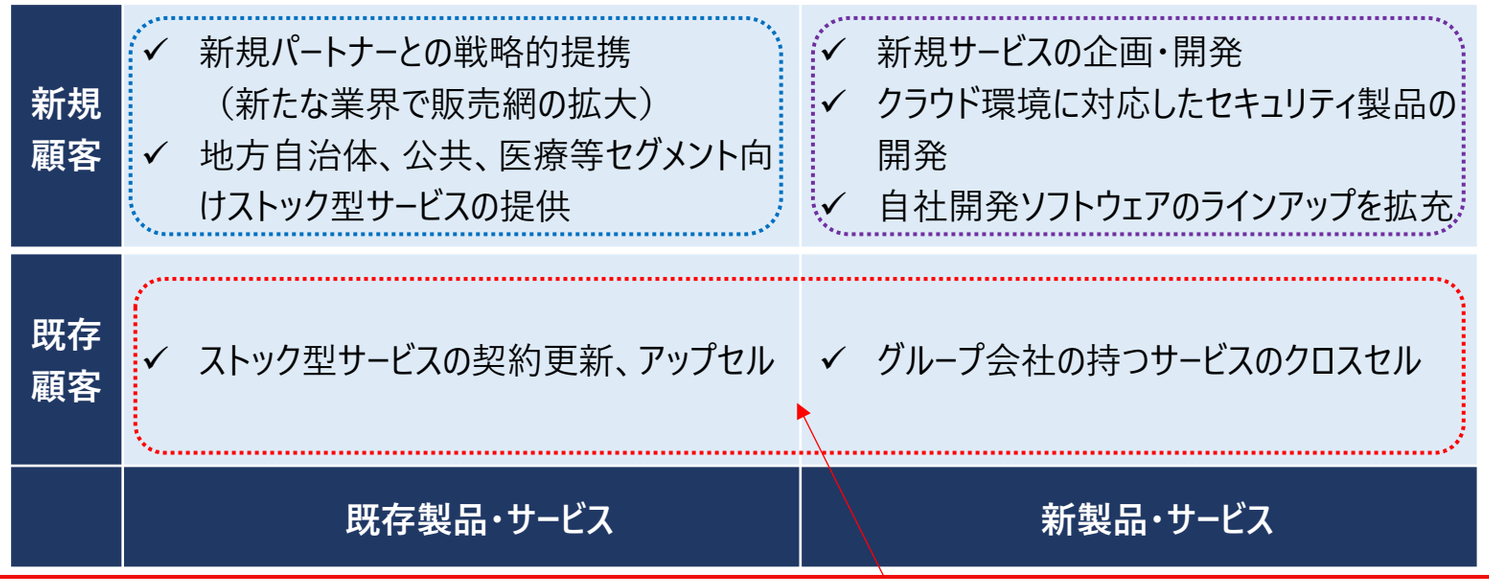


また、単に情報セキュリティエンジニアを派遣するだけでなく、上図のように情報セキュリティ事業の既存のお客様へ従来の運用監視サービスに、情報セキュリティエンジニア派遣サービスを合わせたハイブリッド型のビジネスモデルをご提案できることも他社にはない強みであると認識しております。

事業の取組み状況

パートナーとの提携を推し進め、ITセキュリティサービスに強みを持つ株式会社ブロードバンドセキュリティや医療DX事業を中心にサービス提供する株式会社メディカル・オーシャンと戦略的な業務提携を締結、医療分野や自治体・公共における新たな販路の開拓を図りました。結果として、新規パートナー開拓　年間9社獲得しました。

主力のセキュリティ運用監視サービス（SOCサービス）においては、医療機関向けサイバーセキュリティ対策サービス「NetStare for Medical」や**自動車産業サプライチェーン向けサービス**「NetStare for OT/IoT」の認知拡大・拡販に注力、また子会社LogStare（ログステア）では、BoxやGoogle Workspaceのログ分析などクラウド環境に対応した各種セキュリティ製品開発や運用基盤の強化を図りました。



従来から強みとしているストック型サービスであるセキュリティ運用監視サービス（SOCサービス）の新規契約獲得、契約更新を軸に、安定した収益基盤の確立に引き続き、取り組みました。

既存顧客との契約継続、更にはアップセル、クロスセルの取引拡大に向けて、顧客フォローに技術スキルを保有する担当者を加えるなどの体制で差別化を図っております。

Ⅳ.業績ハイライト

事業セグメント別売上推移

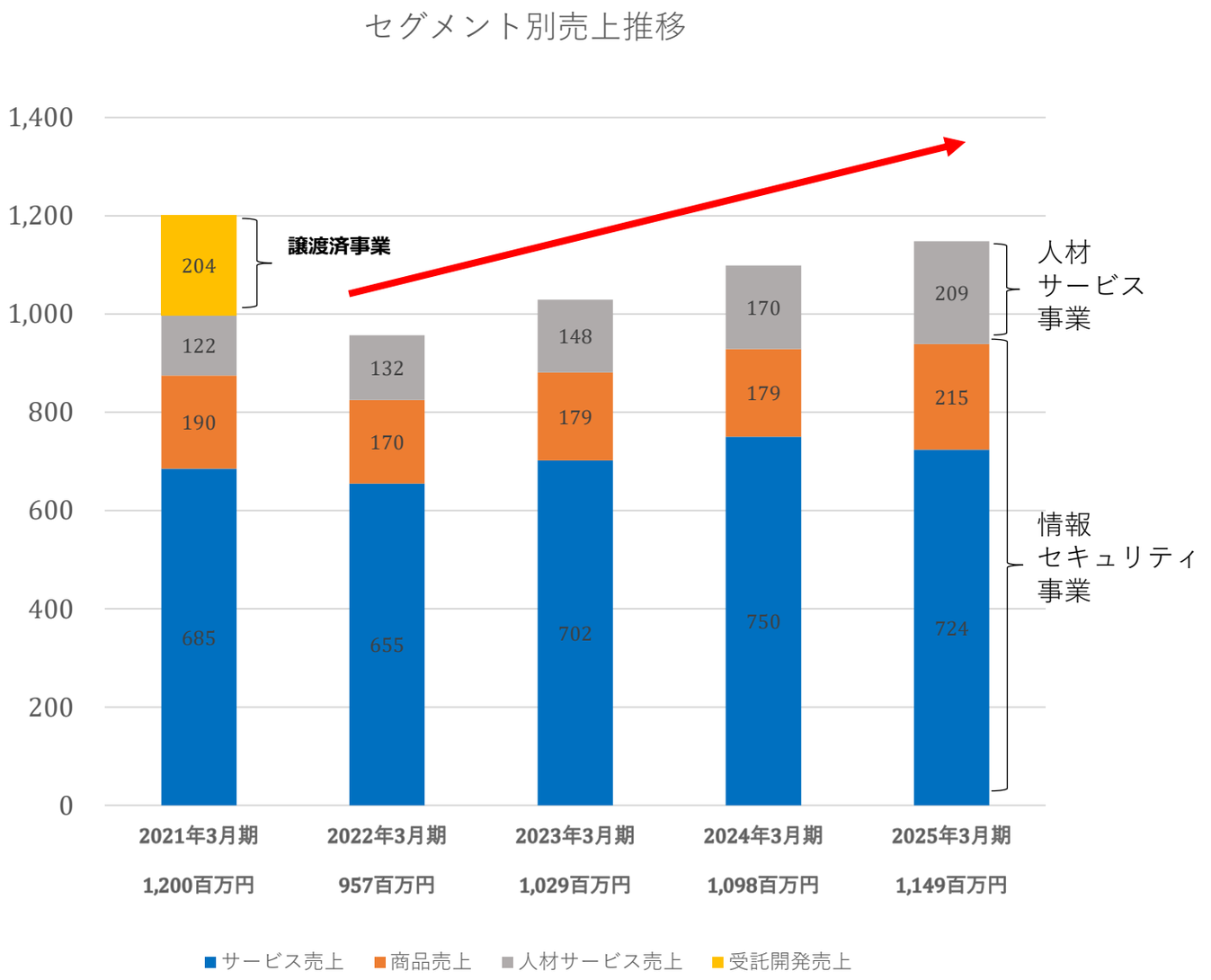
情報セキュリティ事業の売上構成は、月額料金で継続性の高いサービスであるセキュリティ運用監視サービスを中心に、営業活動においても、安定したストック型サービスの新規獲得、契約更新に注力しております。

2025年3月期は情報セキュリティ事業は、一部サービス売上が商品売上への移行が進み、利益が前期比59百万円改善しました。

2025年3月期は売上高939百万円（前期比+1.2%）、売上高構成比81.8%（前期84.5%）となりました。安定した収益の源泉であるストック型サービスの新規獲得、契約更新に取組むことで、収益性を高めてまいります。

人材サービス事業は、情報セキュリティエンジニア志望者を募集し、セキュアヴェイルの豊富な経験を基にした独自の育成プログラムを基に実習訓練を実施し派遣する、という特色を持ったビジネスモデルを提案しております。

2025年3月期は売上高209百万円（前期比+22.9%）、売上高構成比18.2%（前期15.5%）となりました。



連結業績サマリー

医療情報システムのガイドラインに対応した病院向けとクリニック向けセキュリティサービスの提供を開始。大手ディストリビューターなどとの提携や協業にも着手した結果、ビジネスチャンスを拡げ、大学等の公共機関の実績に加え、医療業界での実績も浸透し、日本を代表する病院から地域医療を担う医院に至るサービスを拡げましたが、新規サービス案件の商談遅延、導入時期の延期、既存顧客の一部解約などの要因により、計画通りには進捗しませんでした。

（単位：百万円）

	2024年3月期 実績	2025年3月期 業績予想※	2025年3月期 実績	前期比		業績予想 達成率
				増減額	増減率	
売上高	1,098	1,240	1,149	＋50	＋4.6%	92.7%
情報セキュリティ事業	928	－	939	＋11	＋1.2%	
人材サービス事業	170	－	209	＋39	＋23.0%	
売上原価	655	－	698	＋42	＋6.5%	
売上総利益	443	－	450	＋7	＋1.7%	
販売管理費	475	－	415	△60	△12.7%	
営業利益	△32	50	35	+67	－	70.2%
営業利益率	△3.0%	－	3.1%	－	＋6.0pt	
経常利益	△38	48	37	+75	－	77.8%
税引前当期純利益	343	－	36	△307	△89.4%	
親会社株主に帰属する当期純利益	228	33	42	△186	△81.3%	129.7%

※2024年5月15日発表 業績予想

2026年3月期　連結業績予想

業績予想につきましては、売上高は前期比＋14.9%増の成長を見込み、1,320百万円。
売上成長を実現するための人材への採用・教育等の投資を行い、営業利益109百万円、経常利益109百万円を目標とする。
重点施策であるパートナーとの連携強化によるアップセルや新規顧客の獲得に取組むとともに、前期に企画・開発した
生成AI等に関わるサービスラインナップの拡販による売上拡大、利益改善に注力して参ります。

単位：百万円

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期　業績予想		
			計画	前期比増減額	前期比増減率
売上高	1,098	1,149	**1,320**	＋170	＋14.9%
営業利益	△32	35	**109**	＋73	＋210.8%
営業利益率	△3.0%	3.1%	**8.3%**	－	＋5.2pt
経常利益	△38	37	**109**	＋71	＋192.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	228	42	**75**	+32	+76.9%

Ⅴ.成長戦略

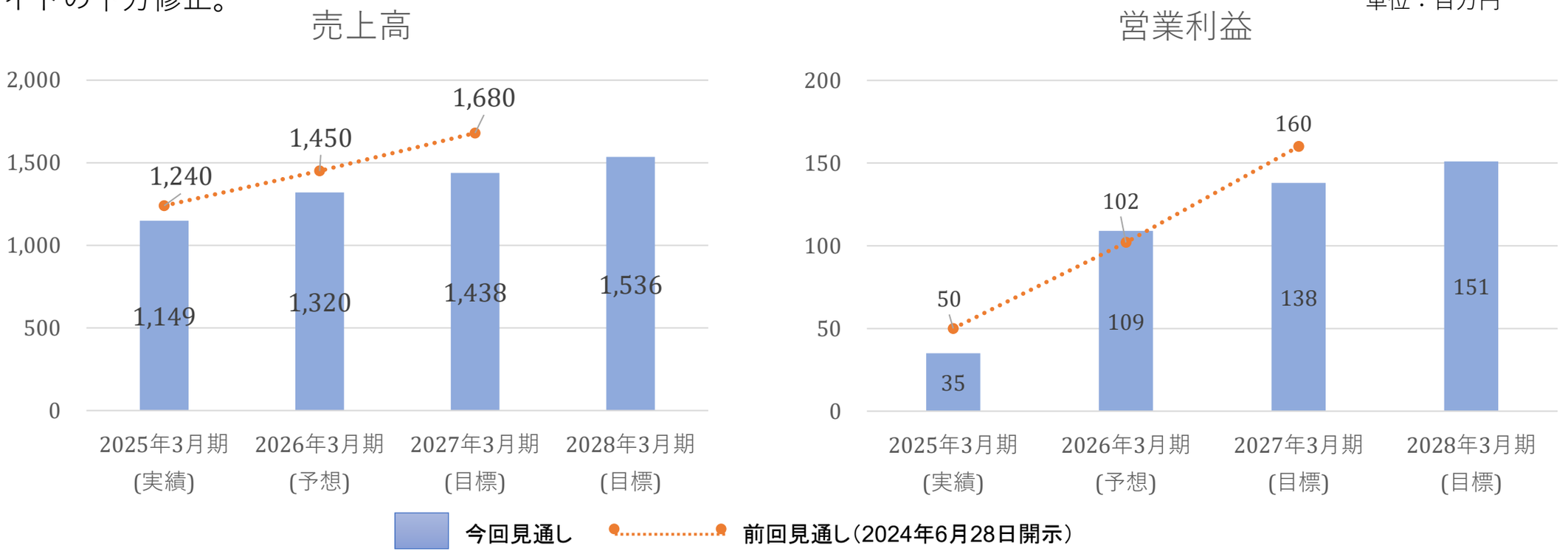
中期業績目標

業績予想につきましては、2026年3月期から2028年3月期にかけて、売上規模を16％アップさせるとともに、収益改善を図り、2027年3月期は売上高1,438百万円、営業利益138百万円、経常利益138百万円、また、2028年3月期は売上高1,536百万円、営業利益151百万円、経常利益151百万円を目標としています。

【前回資料（2024年6月28日開示）からの更新事項】

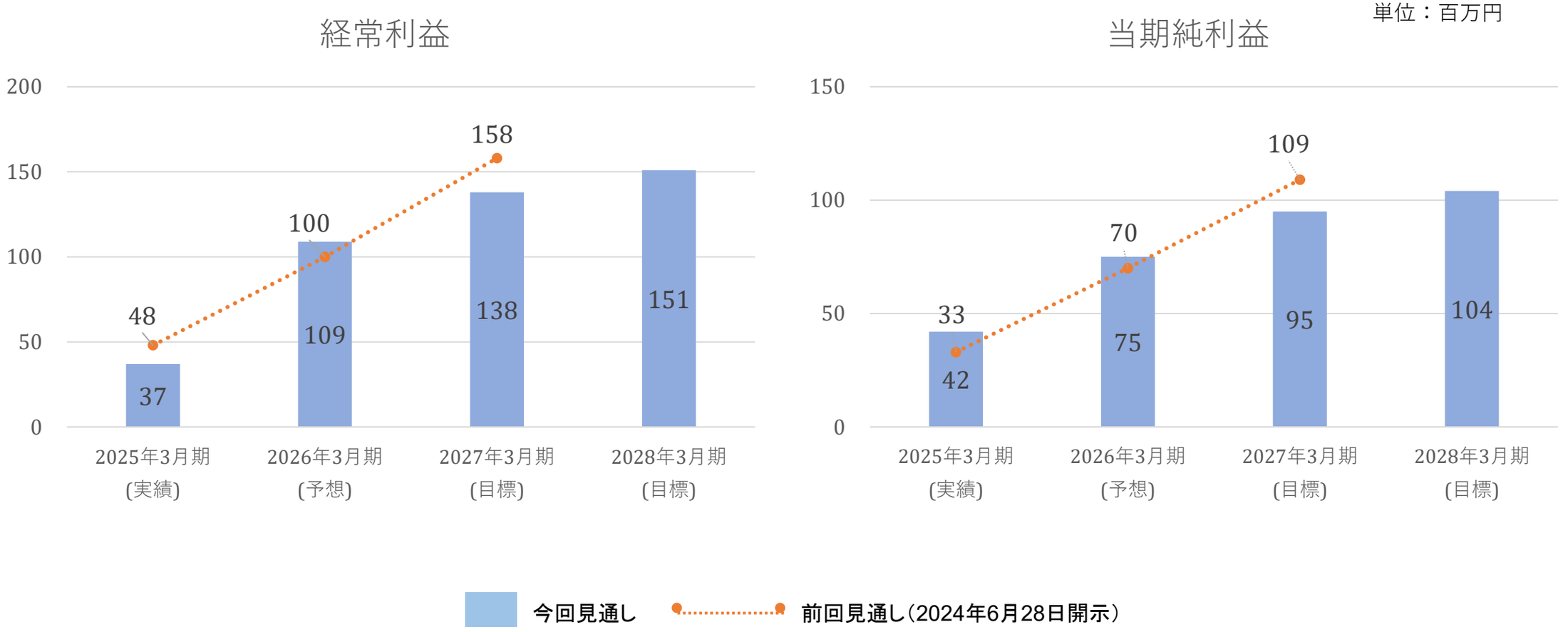
商談及び導入遅延により、2025年3月期予想1,240百万円が実績1,149百万円の下振れしたことを踏まえ、売上計画を1年スライドの下方修正。

単位：百万円



中期業績目標

単位：百万円



注：上記は、営業外損益、特別損益は見込んでいません。

成長に向けた重点施策

1．パートナー戦略	●既存パートナー深耕 ・パートナー支援、コンテンツ拡充 ・パートナー向けカスタマイズサービスの企画、開発 ●新規パートナー開拓 ・パートナー向けウェビナー、セミナーの企画・開催 ・展示会、イベント出展 ・特定業界向け（重点分野：医療、製造業（OT/IoT））向けの新サービス企画、共同開発
2．営業戦略	・新規開拓、既存顧客深耕のための体制強化 ・パートナー開拓営業人材増員（2~3名） ・沖縄カスタマーサービスセンター拡充によるインサイドセールス活動の強化

成長に向けた重点施策

3．製品・サービス戦略

・サービスの付加価値化
・市場セグメントに応じた製品・サービスラインナップを拡充
…「NetStareシリーズ」、「LogStareシリーズ」

（1）「NetStare for Medical」

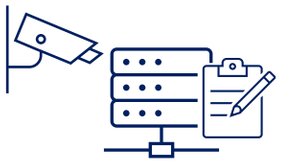
病院などの医療機関のサイバーセキュリティ対策に特化したセキュリティ運用（SOC）サービスです。
近年被害が深刻化しているサプライチェーン攻撃やランサムウェア攻撃への対策など、病院が直面している課題や、病院規模・予算に応じて5つのサービスから必要な対策を選択いただけます。

成長に向けた重点施策

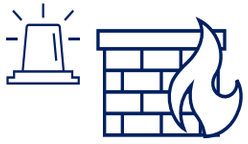
（2）「NetStare for OT/IoT」

近年、自動車産業におけるサイバー攻撃による被害が深刻化しており、「NetStare for OT/IoT」は自動車産業サプライチェーンを守るためのセキュリティ運用（SOC）サービスです。

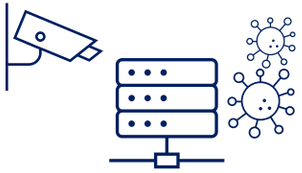
７つのサイバーセキュリティ対策ラインナップ



ネットワーク監視
ログ管理



境界防衛
UTM MSS

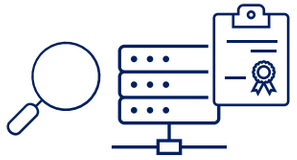


内部脅威監視

ランサムウェア検知

VPN接続と
脆弱性管理

Microsoft 365
ログ管理



セキュリティ診断

成長に向けた重点施策

（3）「ランサムウェア攻撃検知アプライアンス」

Active DirectoryやファイルサーバーなどWindowsサーバーの監査ログを監視し、独自の検知ロジックでランサムウェアの侵入・潜伏を検知、被害の拡大を防ぎます。

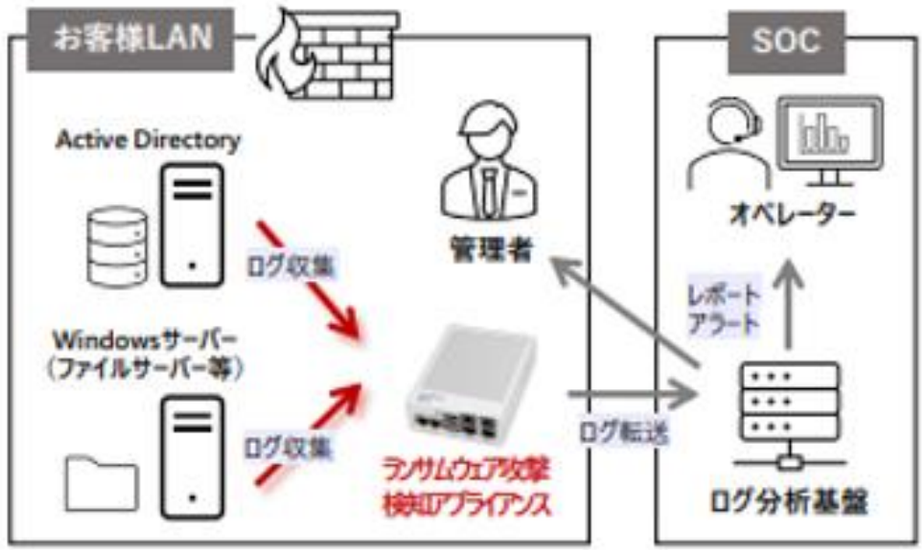
エージェントレスなので、既存環境への閉胸が極小、専用サーバーやOS調達の手間もなくスピード導入可能、置くだけでランサムウェア攻撃対策が実現する小型アプライアンスです。

導入例

ランサムウェア攻撃検知アプライアンスは、標的型メールなどから容易に組織内に侵入し徐々に被害を広げるランサムウェアの行動を、独自のロジックでログから探し出します。

お客様環境には小型アプライアンスを設置するだけ。エージェントレスでログ収集できるので既存環境に影響を与えません。

収集したログは24時間365日有人対応のSOC（Security Operation Center）に転送し解析するので、ランサムウェア検知時の対応をSOCに相談することも可能です。



成長に向けた重点施策

（1）クラウド対応

LogStare × M365 Box Google

クラウドファースト、クラウドネイティブと言った考え方が普及するにつれBoxやMicrosoft 365などのパブリッククラウドサービスの企業導入が進み、利便性が増す一方、マルチクラウド化による管理ツールのサイロ化、運用業務の煩雑化が避けて通れない課題となっています。
LogStareは各種クラウドサービスのセキュリティを向上させるログ分析機能を開発し、企業のIT運用担当者のセキュリティ運用業務を支援します。

ご参考：「LogStare」がコンテンツクラウド「Box」のエコシステムソリューションに認定されました。LogStareがBoxと連携することで、Boxへの不正アクセスの発見や誤ったファイル公開設定による情報流出の抑止などが可能となり、ITセキュリティとガバナンスの向上を強力に支援します。Boxのエコシステムソリューションは、Boxと連携する際のAPIコール数が無制限となるため、Boxを積極的に活用しイベントログが膨大に出力される環境であっても追加費用の心配なくLogStareを利用できます。

（2）生成AI

LogStare × 生成AI

「LogStare」に生成AIを活用したログ分析機能を搭載
従来LogStareが得意としているログの収集・正規化・レポート作成の自動化に加え、新たに生成AIによるログレポートのインサイトを提供することで、SOC（Security Operation Center）の業務効率と成果を最大化。
企業の意思決定を強力にサポートします。

成長に向けた重点施策

4．M&A・投資戦略

・事業シナジーが見込まれる企業へのM&A・投資により成長を加速化
　ーセキュリティ、AI、システム開発等の重点分野

（※M&A・投資について、現在具体的な案件はありません。）

5．IR戦略

・当社Webサイトのコンテンツ充実化
・新規製品・サービスのリリースなど当社グループ事業に関わる情報発信を強化

Ⅳ.認識するリスク

認識するリスク

当社の将来の成長と事業計画の実行に影響を及ぼすと思われるリスク

リスク概要	可能性	時期	影響度	重要度の前年からの変化	当社の対応方針
情報管理について	小	不明	大	同	社内システムは複数のファイアウォール、アンチウィルスシステム、メールチェックシステムにより保護され、セキュリティの信頼性を高めております。主要サーバーは複数台で稼働させる方式をとっており、無停電かつ厳重に管理された耐障害性のあるデータセンターに設置され、事故、障害時に迅速に回復できるよう運用しております。また、当社グループは、すべての役員、従業員との間において入社時及び退職時に機密保持にかかる「秘密保持契約書」を個別に締結するなど、情報の漏洩の未然防止に努めております。
システム障害について	中	不明	大	同	想定される障害に備え、自家発電装備を備えた耐震性、漏水防止性、防火性等に優れたインテリジェントビルでのサービス提供、及び技術的対応を講じております。
競合について	中	中長期	不明	同	当社の経営資源と新しいテクノロジー要素を組合わせた新製品・サービス開発への中長期的な投資を行います。

注：上記は、有価証券報告書に記載する「事業等のリスク」から一部抜粋したものであり、詳細は有価証券報告書の「事業等のリスク」を参照してください。

本資料に関するご留意事項

本資料には、当社グループに関する見通し、将来に関する計画、業績目標などが記載されています。これらの将来の見通しに関する記述は、将来の事象や動向に関する当該記述を作成した時点における仮定に基づくものであり、実際には今後の様々な要因によって、予想数値と異なる可能性があります。

次回の「事業計画及び成長可能性に関する事項」の開示時期は、2026年6月を予定しております。

安心のみえる化 - SECurity for the futURE -

SecuAvail